

4 本時の学習

(1) ねらい 資料を通して生き物を大事にするとはどういうことを考え、自分たちと生き物との関わりをふり返り、生き物のことを考えて優しくしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と予想される児童の反応(・)	指導上の留意点	評価活動	備考
導入	5	1 これまでの「生き物との関わり」をふりかえる。	<p>これまで生き物を大事にしたことがありますか。</p> <p>・トマトに水やりをしています。 ・ザリガニの世話をしました。</p> <p>めあて「生き物を大事にすること」を考えよう。</p>	<p>・学校での体験に限らず家庭での生き物との関わりも出させる。 ・思い出すことのできない児童には、教室のザリガニや外のトマトに注意を促す。自分の導入時の考えを明らかにするため名前札を使用する。</p>	<p>STEP 1 「導入時の自分の考え」がわかる。(発言・挙手)</p>	・掲示物
展開前段	25 (5)	2 資料「ファーブルの子ども時代」を通して「生き物を大事にすること」を考える。	<p>卵の美しいしまもようをみながらファーブルはどんなことを考えているでしょう。</p> <p>・きれいだなあ。・ほしいなあ。・もってかえりたいなあ。 ・もって帰らないほうがいいかな。</p> <p>はっとしたファーブルはどんなことを考えているでしょう。</p> <p>・見つかってしまった。・とらなければよかった。・ごめんね。 ・お母さん鳥に悪いことをしたなあ。・返しにいこう。</p> <p>生き物を大事にするとは、とらないということかな？生き物を大事にするとはいったいどういうことでしょう。</p> <p>※矢印を使って考えましょう。 ・「ごめんね。」は卵の中のあかちゃんを考えています。 ・「返しにいこう。」はお母さん、赤ちゃんどちらのことも考えています。 ・あれ？「きれいだなあ。ほしいなあ」は矢印が違うぞ。これは、生き物じゃなく、自分のことだけ考えている。</p>	<p>・中心発問と比べさせるため「美しいものがほしいなあ。」という人間理解につながる発言を引き出していく。 ・すべての行動のもととなる心を考えさせていくことで共通点、相違点を見だしていく。 ・価値の違いを視覚的に捉えられるよう整理して板書していく。 ・矢印の色、吹き出しの色を整理していくことで、生き物を大事にすることを視覚的に捉えさせ考えさせていく。 ・矢印をかいた後に、なぜそうしたのか訳も尋ねていく。</p>	<p>STEP 2 考える頭 生き物を大事にするためには、いろいろな方法があることを知る。その行動には生き物のことを考える心があることが大事ということに気付く。 (発言・挙手・シート)</p>	・場面絵 ・ワークシート ・名前札
展開後段	5 (5)	3 自分たちの生活を振り返ろう。 ○写真を見て、その時の気持ちを考える。	<p>みなさんの矢印はどこを向いていますか。自分かな？生き物かな？</p> <p>・「気持ちよくしてあげるね。」はザリガニのことを考えています。 ・「早く大きくなってね。」もトマトのことを考えています。 ※みなさんの心の中にも「生き物のことを考えて」がちゃんとありましたね。そういう気持ちをこれからも大切にしていきたいですね。</p>	<p>・児童の反応によっては、ペアで話す時間を設けていく。 ・児童に矢印をかかせながら、自分たちにも「生き物のことを考えての行動」があったことに気付かせていく。</p>	<p>STEP 3 感じる心 自分たちにも生き物のことを考えての行動があったことに気付く。 (発言・シート・挙手)</p>	・写真
終末	10	4 今日の授業を振り返る。	<p>今日の授業でわかったこと、気付いたことを振り返ったり、これからやってみたいことを考えたりする。</p> <p>・生き物のことを考えることが大切ということがわかりました。 ・これから、ザリガニが気持ちいいように水かえを頑張りたいです。</p>	<p>・自分のはじめの考えと授業後の自分の考えの変化を書くことができるよう、キーワードを掲示する。</p>	<p>STEP 4 行動する力 授業を振り返ったり、これからやってみたいことを考えたりしている。 (発言・挙手)</p>	・道徳ノート